

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を向上させ、(主体的な選択による学習とキャリア教育を通じて、将来の職業選択を視野に入れた、)自己の進路への自覚を深める教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。また、「プログラミング教育」を教科「情報」から導入し、「全教科」に波及させる。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒が自ら学び、自ら考え、行動する意欲の促進を図る。</p>	<p>①生徒の興味関心をより深化させられる年次進行型の科目設置を検討しつつ、総合学科としての新教育課程表を完成させる。また、「プログラミング教育」の1年目の研究に取り組む。</p>	<p>①高校改革校内準備委員会及び教科系列代表者会議を開催し、議論を深める。</p>	<p>①職員の合意に基づいた新教育課程表が完成したか。</p>	<p>①総合学科としての単位制年次進行型の新教育課程表を完成した。 プログラミング教育実施のため平成29年度の教育課程に情報科の科目「情報の科学」を位置付けた。 プログラミング教育研究推進校に係る教育活動公開研究授業及び教職員研修会を実施し、学習指導案および教材作成を行った。</p>	<p>①平成29年度の教育課程のスムーズな実施に向けて、課題を十分に精査し実施する。 来年度を見据えて、プログラミング教育研究計画を策定する。 神奈川工科大学と連携して、平成29年度に実施科目の年間学習計画を策定する。</p>	<p>①系列を整理して総合学科をより分り易くし、年次進行型の単位制として新教育課程表が完成した事は本校総合学科の新出発として評価できる。</p> <p>①プログラミング教育研究計画を策定するにあたり今年度、本校・小学校職員向けの夏季研修会及び児童への体験教室を実施していただいたことは、2020年学習指導要領改訂イメージにつなげるためにも有効であった。</p> <p>①平成29年度から導入される100分授業について、学習成果が確保されるように授業改善を行うこと。</p>	<p>【成果】</p> <p>①新教育課程表は完成することができた。</p> <p>①プログラミング教育研究に係る科目を教育課程表に位置づけた。</p> <p>【課題】</p> <p>①平成29年度の教育課程の実施に向けて、課題を整理し、スムーズに移行させることができるか。</p> <p>①平成29年度に向けた職員の一人ひとりの取り組みを具体化させることができるか。</p> <p>①100分授業における学習成果を向上させることができるか。</p>	<p>①グループ、年次で課題を抽出し、具体的な対応、時期等を明確化して、平成29年度の研究準備を行う。</p> <p>①平成29年度のプロ gramming教育研究推進校としての具体的な取組計画を策定する。</p> <p>①100分授業において学習成果が向上するように、学校組織全体で、授業改善に重点的に取り組む。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図るとともに学校規律を継続させる。</p>	<p>②支援教育についての理解を深め、生徒一人ひとりの困り感やニーズを把握、共有して支援し、課題の解決にあたる。</p>	<p>②各年次会、企画会議で生徒の情報を共有し、必要に応じて随時ケース会議を開くとともに、スクールカウンセラー（以下SC）を有効活用する。</p>	<p>②ケース会議等の取組が支援に必要な生徒の指導に生かせ、課題解決につながったか。</p>	<p>②教育相談を延べ5日延べ20人 に実施。 SC、養護教諭、教育相談コーディネーター間で十分に情報連携や行動連携が行われ、課題解決に繋がった。</p>	<p>②個に応じた支援体制の充実に向けて、高い人権感覚を持った教員を育成するために研修会を実施する。</p>	<p>②日頃の生徒指導の成果が出ていると考えるが、表面化しないケースがあると思われるので、人員配置、利用機会、外部連携など更なる検討・実施を望む。</p> <p>②地域と連携した生徒の心身を育成するための取組（あいさつ運動、募金活動、イベントの手伝い）は、活発に行われており、大変評価できる。</p>	<p>【成果】</p> <p>②SC、養護教諭、教育相談コーディネーター間で十分に情報連携や行動連携が行われ、教育相談を円滑に実施した。</p> <p>②地域との連携を通じて、生徒の心身を育成できた。</p> <p>【課題】</p> <p>②教育相談に関わる隠れた問題をいかに把握することができるか。</p>	<p>②アンケートを実施し生徒の情報を把握する。</p> <p>②会議において、年次間、職員間の情報交換を必須事項として情報連携を活性化する。</p>
3 進路指導・支援	<p>①生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。</p>	<p>①キャリア発達に配慮した段階的、系統的な進路指導の充実を図る。</p>	<p>①上級学校や企業、外部機関との連携を深め、効果的な進路ガイダンスを実施する。</p>	<p>①効果的な進路ガイダンスや面談を年3回実施することができたか。</p>	<p>①3年次生の4月に「さがそう進路フェスタ」を行い、多くの学校から講師を招いて最終進路決定に向けての効果的なガイダンスができた。</p>	<p>①こちらが希望する大学に来てもらえないことがあるので積極的に大学へ働きかける。 講演者の人選に向けて、情報収集を強化する。</p>	<p>①キャリア教育の実践である「課題研究」での研究活動や、発表時の各人のプレゼンテーション能力の高さには優れたものがある。それらの成果をまとめて、活用してほしい。</p>	<p>【成果】</p> <p>①上級学校や企業、外部機関との連携を深め、効果的な進路ガイダンスを実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>①実施予定の進路ガイダンスを着実に実施できるか。</p>	<p>①平成29年度の進路ガイダンスの実施計画策定に向けた積極的な情報収集を行い、実施内容を改善する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援					分野別に、公務員や体育系進学者ガイダンスも実施した。 2年次生では、5月に進路意識啓発ガイダンスを2回実施した。	① 1年次生に、「フリーターにならないために」「行きたい進路実現のために」の講演を、寸劇を交えておこなう等の新しい取り組みをおこなった。			
4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。 ②「プログラミング教育研究推進校」として、研究開発に取り組む。	①生徒による地域との取組を進め、生徒一人ひとりの自己肯定感を向上させる。	①「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」で地域からの外部講師を招き、地域の教育力を活用する。	①地域の教育力を効果的に活用し、学習目標に沿った外部講師の授業が実施できたか。	①近隣の学校・施設との連携について、プログラミング学習教材を自作し、小学校教員対象研修会1回(40人)、小学生向プログラミング講座1回(5人)、相模原市産業政策課主催「ロボットガーデン」に参加した。「産業社会と人間」のシチズンシップ教育では、異なる分野の7名の講師を招いた。職業人講話や国際理解教育でも外部講師を招いて、専門知識と体験に基づいた授業を実施していただいた。	①シチズンシップ教育、職業人講話などの外部講師を招いての授業を後期に集中して実施する。神奈川工科大学と連携して、青少年のためのロボフェスタ2016(11月)に参加し、県民との交流を図る。平成29年度の「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」において、単元目標に沿った外部講師による授業を計画し、授業計画を綿密に立てより深い学びに繋がるように取り組む。	①橋本七夕まつり、親睦茶道交流会など多くの機会を捉えてよく参加されている。継続・拡大ができる。②コミュニティスクールの導入に向けて、相模原総合高校としての「地域」の定義を明確化して、導入準備をする必要がある。	【成果】 ①外部講師を有効に活用した授業を実施することができた。 【課題】 ②外部講師を招いた授業を着実に実施できるか。 ③青少年のためのロボフェスタ2016(11月)における取組を通じて、今後のプログラミング教育研究推進に役立てられるか。 ④コミュニティスクール導入に向けて、準備に取り組むことができるか。	①生徒の活動毎に、ホームページを有効活用して、成果が生徒、保護者に伝わるようにし、生徒の活動への意欲を高める。 ②コミュニティスクール導入準備組織を立ち上げ、研究を進める。
5	学校管理 学校運営	①すべての職員が県立高校改革の実施を踏まえ、変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校体制を構築する。	①県民から信頼される学校を目指し、事故・不祥事防止ゼロを達成に向けて、職員の自己管理能力を育成する。	①総括教諭を主体とした事故防止研修を実施し、教職員一人ひとりの内面化を図る。	①総括教諭を主体とした事故防止研修を実施し、教職員一人ひとりの内面化を図る。	①事故防止会議を13回実施した。職員一人ひとりに個別に注意を促し事故不祥事の未然防止に繋げた。	①職員一人ひとりの事故防止への意識を高めるために、グループ内における事故防止研修を実施する。	①事故・不祥事防止等についての取組に「これでよい」とか「やり過ぎ」ということはないと思う。「あっ、しまったと思わないように、組織としては、根気強く研修等を繰り返すしかないような気がする。 ①事故防止の原点！「生徒に不利益がない」をもう一度しっかり確認してほしい。 ①第三者の訪問評価の結果を踏まえて、今までの学校経営戦略の記載方法の修正が必要である。	【成果】 ①平成28年度上半期において、事故・不祥事を未然に防止できた。 【課題】 ①引きつづき、事故・不祥事防止に向けた取組を継続し、事故・不祥事を未然に予防できるか。 ①学校経営計画の記載方法を修正することができるか。 ①学校経営計画の広報の仕方を改善することができるか。	①事故・不祥事の未然防止に向けて、グループ毎に事故防止に向けた意識を高め、未然防止に向けた行動計画を実施する。 ①第三者の訪問評価の結果を、企画会議において分析し、具体的な改善に組織的に取り組む。 ①学校経営計画の記載方法・内容を改訂する。